

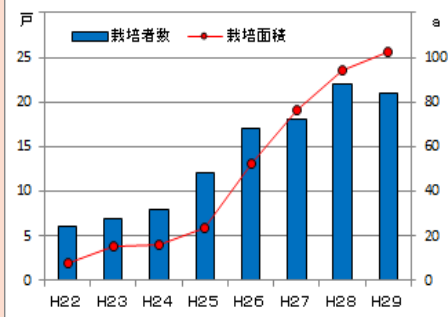
- 那須地域の中山間地を中心に、夏秋いちご「なつおとめ」が栽培されているが、生産量が少なく、**栽培面積拡大と技術向上が課題**。
- このため普及指導センターでは、**新規栽培者の確保、株元冷却や電照栽培の導入、イベント参加による知名度の向上**を実施。
- その結果、**栽培者数21戸、栽培面積102.3aに拡大し、新たな販路を確保、冬春いちごと組み合わせ、いちごの周年供給農業者が誕生した**。

### 具体的な成果

#### 1 新規栽培者確保と既存栽培者の規模拡大(H22～H29)

**栽培者数：6名  
→21名、**

**栽培面積8a  
→102.3a**



#### 2 生産技術の向上による収量の増加

- ①夏季の高温対策が普及し、**総収穫量は23tと平成22年産に比べ13倍**になった。
- ②**天敵資材の効果的利用技術**導入により、害虫の防除効果が向上し、**薬剤散布の労力が大幅に軽減**した。
- ③生産協議会の活動支援  
**生産者同士の交流が活発となり、栽培技術情報の共有化、向上が図られた。**

#### 3 いちごの周年供給農業者の育成

- 夏秋いちごの地域内供給が拡大し、冬春いちごと組み合わせ**周年供給農業者が登場**した。

#### 4 知名度の向上

- ①平成29年8月那須町で開催された「山の日」記念イベントに参加。
- ②広報誌等を活用したPR
- ③パンフレットを作成し、道の駅や**商談会**でのPRなど、**販路拡大**の取組により、**県内外への知名度が向上**。



### 普及指導員の活動

平成22～29年

- 市町やJAの広報誌で「なつおとめ」の栽培を呼びかけ、**栽培希望者に対し説明会、現地見学会及び個別相談会を実施**。既存の生産者に、**補助事業を活用**した栽培規模拡大を支援した。

平成17～29年

- 普及指導員の提案により設立した**夏秋いちご生産協議会**の事務局運営を支援した。

平成22～29年

- 高温対策**として株元冷却、ベット冷却、遮光、気化熱冷却を取り入れた簡易高設栽培、**天敵資材を利用した害虫防除**の導入を図るため、**現地検討会や巡回指導を計画的に実施**。

平成22～29年

- 生産協議会事務局として各種イベントで、**試食・販売の実施及びパンフレットの配布**により、知名度の向上を図った。**地域内外の実需者や流通業者との情報交換、販売や流通に関する生産者間の情報共有化等**を図った。

### 普及指導員だからできたこと

- 夏秋いちごの速やかな新品種への転換や新技術導入を提案、**補助事業による支援**により、安定生産と作付拡大を支援した。

- 市町、JA等と連携**し、新規栽培者の確保、冬春いちごと組み合わせ、**いちごの周年供給・農業者の育成**に取り組んだ。

# 夏秋いちご「なつおとめ」の早期普及拡大の推進

那須農業振興事務所経営普及部

那須地域の地域戦略 「那須ブランド「園芸産地の振興」

普及指導計画の戦略課題名 「地域の特色を生かした園芸生産拡大」

【キーワード：園芸、ブランド化、規模拡大 活動期間：平成22年～（継続中）】

## 抄録

- 平成22年から「なつおとめ」の普及推進を開始し、新規栽培者の確保と栽培規模拡大の推進により、栽培面積103.0a、栽培者数21戸へ拡大しています。
- 「なつおとめ」のPR活動を支援し、各種イベント参加やパンフレット等作成支援を行い、知名度の向上と新たな販路拡大を図っています。
- 栽培技術の向上による生産量の拡大に向け、ク라운部冷却や電照栽培の普及及び検討を実施しています。

## 1 取組の背景・ねらい

那須管内は夏季に比較的冷涼であり、夏秋いちご「なつおとめ」の栽培に適していることから、新規栽培者の発掘や既存栽培者の規模拡大に取り組みました。

また、夏秋いちごの生産量が少ないことから、「なつおとめ」の安定供給を目的に生産技術の向上に取り組みました。

併せて、知名度の向上と販売先の開拓を図るため、各種PR活動の支援に取り組みました。

## 2 活動対象

### (1) 対象名

那須地方夏秋どりいちご生産協議会、夏秋いちご栽培志向者、市町、那須農業協同組合等

### (2) 対象の概要

那須地方夏秋どりいちご生産協議会員は、平成29年度で21戸（うち法人1経営体）となっています。

## 3 活動の内容

### (1) 指導・支援の体制

所内の地域プロジェクトチームにより、「なつおとめ」の生産拡大と販路拡大の推進を図りました。また、部内では冬春いちごと組み合わせたいちごの周年供給体制の確立を目指し、園芸課いちご担当を中心に取

写真1 PR活動

り組みました。  
那須塩原市、那須町及びJAと連携し、生産拡大に向けたPR活動や新規栽培者の確保、補助事業による施設整備を行いました。

### (2) 活動経過

#### ア 栽培技術の向上による生産量の拡大

「なつおとめ」の特性等について生産者の理解を深め、生産安定を図るため、現地検討

会や巡回指導を計画的に実施しました。また、株元冷却やベット冷却、遮光等の高温対策、気化冷却を取り入れた簡易高設栽培の導入を行うとともに、天敵資材を利用した害虫防除を実施しました。

#### イ 新規栽培者の確保と栽培規模の拡大

市町やJAの広報誌に「なつおとめ」の栽培を呼びかける記事を掲載し、栽培希望者を募りました。栽培希望者には説明会、現地見学会及び個別相談会を実施しました。また、既存の生産者に対しても県単補助事業を活用した栽培規模の拡大を働きかけました。

#### ウ 「なつおとめ」のPR活動支援

各種イベントに生産者が参加し、試食・販売を行うとともに、協議会で作成したパンフレットをイベント会場や取扱店舗に置いてもらうことで知名度の向上を図りました。また、地域内外実需者や流通業者との情報交換、販売や流通に関する生産者間の情報共有化等協議会活動の活性化を図りました。

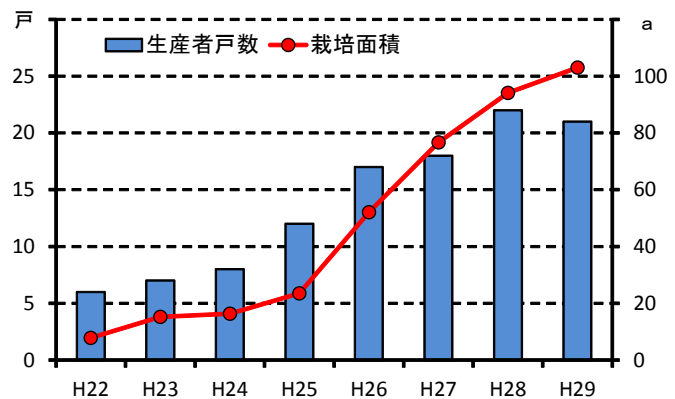


図1 生産者戸数・栽培面積の推移

## 4 活動の成果

### (1) 生産技術の向上による収量の増加

基本的栽培管理の必要性が理解され、夏季の高温対策がとられるようになったことで、総収穫量は18t程度と平成22年産に比べ10倍になりました。また、天敵資材の効果的な使用方法を推進したことで害虫に対する防除効果が向上し、薬剤散布の労力が大幅に軽減されました。生産者自身が栽培方法を相互検討するなど、協議会の活動も活発になされています。

### (2) 新規栽培者の確保と既存栽培者の規模拡大

新規栽培者講習会を開催し、技術習得を図るなどの継続的な推進によって、平成22年に比べ栽培者は12名、栽培面積は95a増加しました。

### (3) 知名度の向上

平成29年8月に那須町で開催された「山の日」記念イベントなど、各種イベントや広報誌等を活用したPRによって、県内外への知名度向上を図りました。また、道の駅や商談会で「なつおとめ」をPRするためのパンフレットを作成して販路の拡大につなげました。



写真1 PR活動

## 5 今後の課題と方向

### (1) 安定供給に向けた生産量の拡大

新規栽培者の確保及び既存の生産者の栽培面積拡大を働きかけていきます。また、栽培マニュアルを更新し、栽培技術の早期習得と平準化を推進するとともに、電照等の新たな栽培技術の確立を図ります。

### (2) 販路の拡大と地域内流通の体制の整備

新たな販路を拡大できるよう、今後も「なつおとめ」のPRを継続しながら、地域内外での流通体制を関係機関と検討していきます。